

## background こどもの居場所の現状

#### 明石市が行っている政策

明石市が行う「明石版子ども食堂」や「明石放課後児童クラブ」は、親の 負担軽減と、こどもの発育・発達を促進する好ましい政策であるが、活動 場所は無機質な空間となっており、活動自体もその建物内で完結し、まち とは関係が浅いと言える。このことから、こどもの遊び場や学び場はまち に開き、地域とともに成長することが望ましいと考える。

#### こどもの遊び

遊ぶということの本来の意味は「外に出る」という意味がある。こどもたちは遊びを通じて**運動能力**に、**想像力、社会性**、**感性**を開発する。また、こどもの遊びの多くは大人の模倣であり、遊びのまねから、こどもたちは社会のルールや、大人の役割、義務を学ぶ。しかし遊びに必要な、時間と場所の条件は、各時代の制約を受け必ずしも自由なものではない。



こどもの体遊びは、発育に大きな手助けをしてくれる存在である。

だが、「公園・空き家などの遊び空間が少なくなっているから」、「一緒に体を動かして遊ぶ仲間が少ないから」、「安全面や近隣トラブルなどの問題で、子どもが外で遊ぶことに不安があるから」といった理由で年々体遊びの頻 度は減少しており、スマホやゲームといった室内遊びに置き換わってきた。

こどもが抱える問題は、町の仲間と、大人の協力を持って解決していく。 また、魅力のある路地を生かしたこどもの居場所が、地域全体に広がりを みせ、こどもが地域とセットになっている当たり前を再認識する。 こどもたちの走る姿や、笑うところ、無邪気なところは、人の心を癒して くれるだろう。

こどもたちの活気がまちに溢れれば、港町やそのほかの町も自ずとよい方向に行くと期待している。

### site 明石市港町

明石駅の南側に位置し、付近に明石浦漁業組合が存在する。

対象敷地は、1945年の空襲により一体が焼き払われたが、地割は当時から残っており漁師町らしい南北に広がる細い路地で構成される。空き地や空き家が多く存在するが、神社が多数あることやと路地に溢れ出る生活間が港町の地域性として現れている。



明石市港町周辺地図

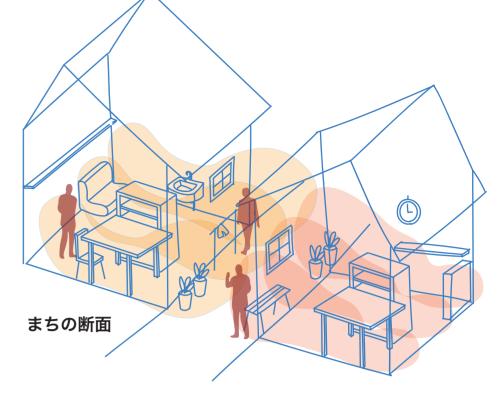


路地の幅は 2m 前後と細く、路地に駐輪されている自転車でさらに狭くなっている。その路地には、棚、ゴミ箱、洗濯物、観葉植物、長靴、いすといった生活の一部が溢れ出しており、道路という交通のためのスペースを、洗濯物干し場やリビングのような空間、庭など多様なスペースにうまく置き換えている。



菩薩の縁日を中心に行われる、子どもたちが主役の行事として「地蔵盆」がある。地域のこどもたちが、家に集まり賑わいをみせる。

毎年8月24日には、地蔵



路地には、おしゃべりをする人や、ベンチに長く座っている人など、人の目が存在しておりこどもたちにとっても適切な場所であると考える。

#### 路地の問題

明石市港町の路地は、道路の幅員の基準に適合していない。 新築を建てる場合は、港町の平均の路地幅を考えると、約 1m以上セットバックして建てる必要がある。

### concept 住宅兼こどもの遊び場

港町での暮らしはこどもの居場所と一緒に。 路地には生活が溢れ出し、町が遊び場になる。

## 「路地と住宅とこどもの遊び場」

まちから離れた存在になったこどもの遊び場は、 まちの住宅の一部として帰ってくる。

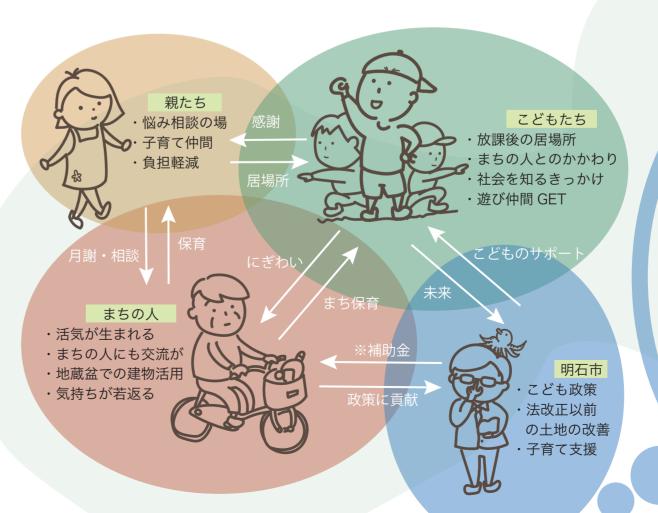
港町の路地は、人々の共有スペースとなっている。 住宅の一部となったこどもの遊び場も、 こどもから大人までの居場所となる。

まち全体で、こどもを育て、こどもがまちを育てる。

### ・兵庫県明石市港町に、学校・自宅以外の安心できる遊び 場としてこどものサードプレイスとなるものをつくる。

・まちから離れた存在にあるこどもの遊び場を、町の中の路地を生かしながら、住宅と一体になるような計画を行う。

・港町の路地全体がこどもの遊び場となり、まちの人が子育てに関われる、社会全体でこどもたちを育ていけるように。



住宅側こどもの居場所

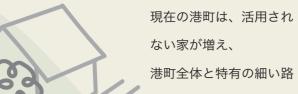
20XX 年 兵庫県明石市は、市の政策として 住宅を建てる際に、建物の容積率の 40% を こどもの居場所として運用する場合、 建設費の一部を市が負担する仕組みを設立。

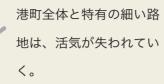
これによって、明石市はこどもが暮らし やすい市としてにぎわいをみせる。

### 空間構成 (路地の特性)



港町が 100%使われていた時には、どの家も生活の要素が、路地に溢れ出していた。

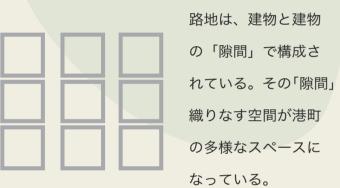


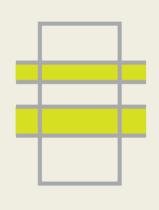




現在では、こどもたちの力によって、路地と住宅をにぎわせ、路地の方からの遊びの溢れ出しを住宅が受け止める側にする。



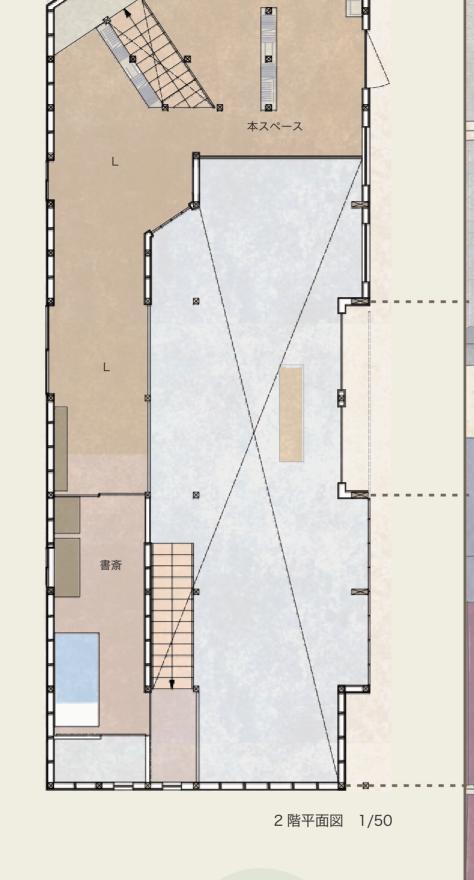




家自体を路地のよう に用途で分割する。 家の一部を路地のよ うに家と家との「隙 間」とする。 家は新しい路地に。

スケッチ





# 昔を通じて「遊ぶ」住宅

この家に住む、老夫婦はなんでも知っている。生活の知恵は、 何気ない日常の楽しさを最大限にふくらましてくれる。

この家では、土間空間が路地に面して広く設置している。 その土間をひらけば、路地は広がりをみせ、 路地がこどもたちの遊び場として姿を変える。

この家は、キッチンのスペースが路地に溢れ出している。 「食」に関するイベントはここで、行うことが可能である。

> 階段を通る際には、住宅側に入り込む。 港町の住宅はこどもと一緒に存在する。



8

